

地域医療総合支援センターよりお知らせ

日頃より、当院の地域医療連携にご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

2020年7月1日より地域医療連携室は「地域医療総合支援センター」として稼働をはじめました。地域の先生方には、当院を便利にご利用いただけるように、患者さまのご紹介や検査・治療後の相互連携という点でさらに試行錯誤を重ねながら、よりよい地域医療を共に作っていきたく思っております。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

患者さまのご紹介について

紹介状(診療情報提供書)に、診療・検査ご希望日時・保険情報をご記入の上、下記までFAXしてください。

医師の指定がある場合は、紹介状にご記入ください。入院依頼の場合は、お部屋タイプもご記入ください。

1

診療情報提供書はホームページよりダウンロードいただけます。

当院のホームページのトップページより、

①【医療関係者の方へ】をクリック

②【紹介・診療・検査予約】をクリック

③ご利用手順の中にある右記のボタンをクリックし、PDFを印刷ください。

診療情報提供書

糖尿病患者様専用診療情報提供書

2

FAXにてお返事いたします。

入院依頼および病状等により多少お時間をいただく場合がございます。

3

患者さまへご来院日時に、紹介状(診療情報提供書)と保険証をご持参下さいますようお願いいたします。

地域医療総合支援センター

TEL.078-681-6250

FAX.078-686-1802

[月～金曜日]9:00～17:30 [土曜日]9:00～17:00 [日・祝日]休み

編集後記

GENERALINK 3号が配布される頃には、初夏を迎えていることと存じます。5月ごろより気温は真夏日、そして亜熱帯地域のようなスコールに見舞われ、続いて日本特有の梅雨を過ごし、いつの間にか四季が失われています。急激な気温変化に対応出来ず、5月に熱中症に罹患された患者もおられ、特に新型コロナの影響もあり、疾患の季節性も曖昧になっていると感じます。また、新型コロナはがん検診の抑制にまで影響をもたらしました。地域の先生方も約2年間、新たな診療形態への変更を余儀なくされたと思います。

当院でも発熱外来用のプレハブ施設、新型コロナ専用病床、そして感染対策アイテムの需要増大等、計算できない医療体制の変化を経験しました。手術件数の減少も少かりで、そもそも受診抑制は大きな問題となりました。6月初旬にはやや落ち着きが見られた新規コロナ感染者数は、夏ごろには夏休みの人流とワクチン接種からの時間経過で抗体価が下がり増加傾向も予想されます。しばらくWith Coronaでの診療体制が必要とされます。医療者が健康であっての医療です。くれぐれもご自愛のほどお願い申し上げます。



副院長
地域医療総合支援センター センター長
西岡 昭彦 Akihiko Nishioka

兵庫医科大学卒(昭和57年)
・日本外科学会専門医
・日本消化器外科学会認定医
・日本消化器内視鏡学会専門医
・日本内視鏡外科学会技術認定医
・近畿外科学会評議委員
・兵庫医科大学臨床教育教授
・兵庫医科大学第二外科講座非常勤講師
・マンモグラフィ読影認定医



地域医療機関向け広報誌 ジェネラルリンク

GENERALINK

総合病院の総合(GENERAL)と、連携(LINK)を組み合わせた造語になります。私たち神戸百年記念病院は、「地域になくてはならない病院になる」という理念のもと、地域の医療を共に支えるために、相互連携していきたいと強い想いを込めて作成しました。

2022.07
03

外科特集

『地域医療機関、地域住民のニーズに対し、迅速に安心できる医療を目指して』



医療法人社団 顕鐘会
神戸百年記念病院

〒652-0855 神戸市兵庫区御崎町1-9-1
<https://www.kobe-century-mh.or.jp>
TEL.078-681-6111(代表)



医療法人社団 顕鐘会
神戸百年記念病院



特集 | 外科

Surgery

副院長・外科部長 西岡 昭彦
Akihiko Nishioka

ごあいさつ ～地域医療連携広報誌「GENERALINK」～



理事長
田中 岳史

日頃より当院の診療活動に多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。ここに「GENERALINK 第3号」をお届けいたします。今回は、「外科」の特集号です。消化器・乳腺の良・悪性疾患、一般外科から腹部救急に至るまで、幅広いフィールドを高い専門知識と技術、豊富な経験が当院の外科を支えています。また同時に外科は当院の進める多職種協同協力によるチーム医療の中心的な存在としてその役割を担います。手術治療だけでなく、エビデンスに基づいた標準化学療法、精神的サポートや緩和治療、そしてかかりつけの先生方との密接な医療連携に至るまで、患者さん本位の包括的な医療を提供しています。地域の皆様に、こうした高品質、多機能な外科が近くにあると思っていただき、迅速で信頼される医療を提供するのが当院外科の使命です。外科はよく“病院のムードメーカー”と言われます。誌上の写真でご覧いただくように当院の外科医師・スタッフは、皆とても良い笑顔をしています(と、私は思います)。この笑顔がいつも患者さまお一人お一人に寄り添い、元気と安心の源になりますよう、一同努力を続けてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

地域医療機関、地域住民のニーズに対し、
迅速に安心できる医療を目指して。

開院100年を迎えた2007年に鐘紡記念病院より神戸百年記念病院と名称変更し、さらに地域医療機関、地域住民の連携を密にした開かれた病院を目指してきました。外科診療においては消化器疾患を中心に、乳がん、鼠径・腹壁ヘルニア、下肢静脈瘤手術等を手掛けてきました。特に近隣医療機関より早く鏡視下手術を導入し、現在は手術症例の半数以上を占めるにいたります。

現在神戸市内には、神戸大学医学部附属病院、神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市立医療センター西市民病院等の大病院があり、高度先進医療、ロボット手術等が行われています。中規模病院(199床)の当院外科のあるべき姿は、フットワークの軽さを武器に、地域医療機関、地域住民のニーズに対し迅速に安心できる医療を提供できることだと思います。診療ガイドラインに沿いながら患者と密に接することで、個々の患者さんに応じた医療を提供し、特にがん治療においては、診断から手術、抗がん剤治療、さらに緩和治療まで外科が一貫して対応させていただいております。

最後にご紹介いただいた近隣医療機関の先生方には、お待たせしない対応とできるだけ早く患者さんをお返しできることを心がけております。今後とも当病院外科をよろしくお願い申し上げます。

診療科の紹介

数字で見る当院の外科

(単位:件)

手術実績 ※2021年	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
腹腔鏡下胆嚢摘出術	54	53	74	64	63
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	43	32	41	41	36
大腸がん手術	17	15	24	22	28
胃がん手術	5	11	10	7	2
乳がん手術	12	0	4	4	14
下肢静脈瘤手術	0	0	38	38	38
マンモトーム生検	0	0	0	0	11
乳腺針生検	20	29	26	21	15

スタッフ構成



副院長
地域医療総合支援センター
センター長

西岡 昭彦

Akihiko Nishioka

[略歴]

昭和57年 兵庫医科大学 卒業
昭和62年 兵庫医科大学第二外科医員
昭和63年 兵庫医科大学第二外科講座助手
平成10年 神戸百年記念病院 外科医長
平成14年 神戸百年記念病院 外科部長

[資格・免許]

- ・日本外科学会専門医
- ・日本消化器外科学会認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医
- ・日本内視鏡外科学会技術認定医
- ・近畿外科学会評議委員
- ・兵庫医科大学臨床教育教授
- ・兵庫医科大学第二外科講座非常勤講師
- ・マンモグラフィ読影認定医

[専門・得意分野]

- ・消化器外科・内視鏡外科・胆膵外科
- ・乳腺外科・ヘルニア・消化器内視鏡検査



中島 幸一

Koichi Nakajima

[略歴]

平成2年 兵庫医科大学 卒業
平成2年 兵庫県立淡路病院 研修医
平成4年 温泉町国民健康保険診療所 所長
平成7年 兵庫県立淡路病院 外科医長
平成9年 公立浜坂病院 内科医長
平成10年 千種町国民健康保険診療所
平成11年 千種町国民健康保険診療所 所長
平成17年 公立穴栗総合病院 外科医長
平成20年 公立穴栗総合病院 外科部長
令和4年 神戸百年記念病院 外科

[資格・免許]

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医
- ・消化器がん外科治療認定医
- ・日本腹部救急医学会認定医
- ・難病指定医
- ・マンモグラフィ読影認定医
- ・インфекションコントロールドクター
- ・日本スポーツ協会公認スポーツドクター

[専門・得意分野]

- ・消化器外科・ヘルニア



高橋 治海

Harumi Takahashi

[略歴]

昭和58年 三重大学医学部 卒業
昭和58年 岐阜大学第2外科医員研修医
昭和59年 揖斐総合病院外科
昭和61年 国保町立金山病院外科
昭和63年 岐阜大学第2外科研究室
平成4年 岐北厚生病院外科医長
平成6年 倍生病院 外科部長
平成16年 岐北厚生病院 外科医長
平成20年 岐北厚生病院 乳腺外科部長
令和3年 神戸百年記念病院 外科

[資格・免許]

- ・日本外科学会専門医
- ・日本乳癌学会指導医・専門医
- ・マンモグラフィ読影認定医

[専門・得意分野]

- ・乳腺外科



医局長
外科医長

小林 政義

Masayoshi Kobayashi

[略歴]

平成18年 兵庫医科大学医学部 卒業
平成20年 兵庫医科大学病院 初期研修医
平成21年 兵庫医科大学病院 旧第二外科
平成23年 関西労災病院外科
平成27年 兵庫医科大学病院 下部消化管外科
平成28年 尼崎中央病院外科
平成28年 兵庫医科大学病院 下部消化管外科
平成30年 神戸百年記念病院 外科 医長
平成30年 神戸百年記念病院 医局長

[資格・免許]

- ・医学博士



西原 弘貴

Hiroataka Nishihara

[略歴]

平成30年 埼玉医科大学医学部医学科 卒業
平成30年 埼玉医科大学総合医療センター
初期研修医
令和2年 兵庫医科大学病院 外科専攻医
令和3年 独立行政法人国立病院機構
大阪医療センター 外科専攻医
令和4年 神戸百年記念病院 外科専攻医

消化器外科



腹腔鏡手術から化学療法まで多岐にわたるがん治療 外科医長 小林 政義

私は2018年4月より兵庫医科大学病院 下部消化管外科より当院外科へ赴任してまいりました。大腸がんが専門分野ですが、その他消化器がんの治療にもあたっております。

外科医として腹腔鏡手術はもちろんのこと、大学でたくさんの方の化学療法の経験も積んできたためPS*が良い患者さんは年齢に関わらず積極的に化学療法を行っております。80代の患者さんの化学療法も多く、しっかりと副作用のマネジメントを行いながら治療成果もあげております。

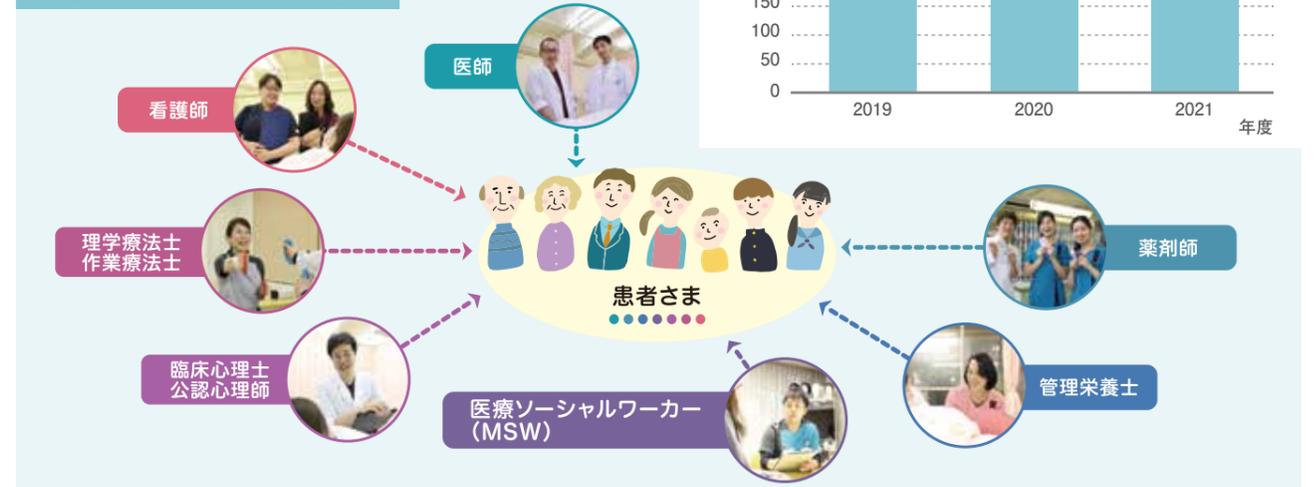
また大学病院や約1年間の救命救急センターの救急症例の経験から急性腹症の手術、ICUで行うような管理も対応可能な範囲で行っております。

*PS: Performance Status

『緩和ケアチーム』で全面サポート

『緩和ケアチーム』を立ち上げて日々強化し、がんを診断されたときから、患者さんだけでなくご家族のサポートを多職種で行っております。病棟では毎日緩和ケアチームが回診を行い患者さんのケアに努めております。

緩和ケアチームのサポート体制



地域とつながる医療へ

がんの治療は、特に開業医をはじめとした地域を支えてくださる先生方のお力なくしては成り立ちません。病院の治療だけではなく在宅治療・ケアも非常に重要です。コロナ禍で制限されておりましたが、これからは地域を支える先生方とのカンファレンスや交流会を定期的に行わせていただけたらと思っております。

腹部救急疾患とがんに強い外科を目指して

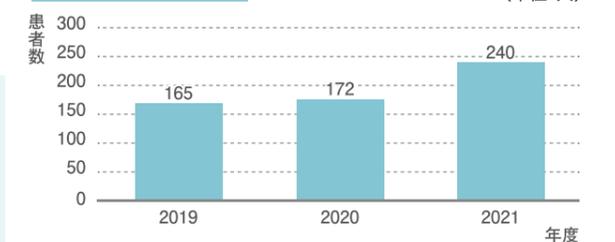
そして、神戸百年記念病院が地域の先生方にとっても、その理念である「地域になくしてはならない病院になる」ことを目指し、何よりも患者さんにとって良い医療を共に提供させていただきたいと考えております。

「神戸百年記念病院の外科は腹部救急に強い、がんに強く治療も丁寧」をしっかりと皆さまに知っていただけるように日々の診療を頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

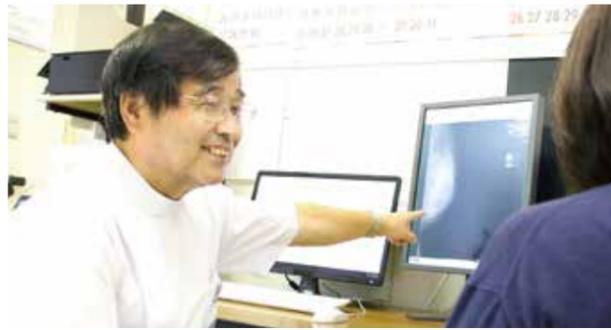


がん化学療法患者数

(単位:人)



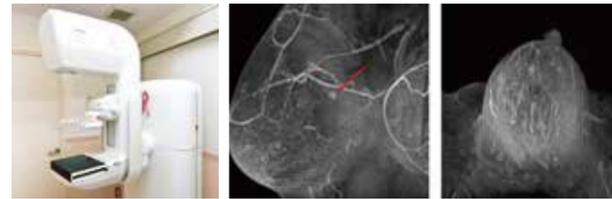
乳腺外科



安心・安全な診療体制構築へ 医師 高橋 治海

私は、2021年4月から当院外科に赴任、専門は乳腺外科です。当院で乳腺外科を立ち上げ、乳癌をはじめとして乳腺疾患全般に関与して、地域に必要とされる安心・安全な診療体制を構築したいと思います。お役に立てる患者さんがありましたら、よろしくお願いたします。

主な検査・診断方法



当科で対応可能な診療

01 乳癌の確定診断
針生検あるいは、マンモトーム生検

03 化学療法 (分子抗体治療を含む)
術前あるいは、術後の化学療法
再発時の化学療法

02 乳癌の根治手術
受診から**3週以内**に手術可能
センチネルリンパ節生検(色素+アイソトープ法)
乳房切除術
乳房部分切除術(腋窩郭清を伴う)

04 緩和ケア・サポートチームの関与
緩和病棟はありませんが、症状緩和のケア
は可能で最後の看取りをいたします。

当科で対応できない診療 (2022.07 現在)

- ① 微細石灰化症例のステレオガイド下生検
- ② 乳房形成術
 - ▶ 形成外科医不在のため、人工乳房、自家再建希望者は他院へ紹介いたします。
- ③ 乳腺部分切除後の放射線治療
 - ▶ 他院へ紹介いたします。
- ④ 遺伝性乳癌患者さんに対するカウンセリング
- ⑤ 内視鏡を用いた手術

今後の計画

- 2年後に乳癌認定施設の資格をとり、形成外科医との連携で乳房形成ができるような体制をとること。
- 乳腺USができる資格検査技師と乳癌の認定看護師の養成
- 地域住民への乳癌検診の啓蒙と乳癌の市民講座実施
- 近隣の病院・開業医との連携で地域医療に貢献

ヘルニア外来



鼠径ヘルニアの診療の現状 医師 中島 幸一

鼠径部ヘルニアは、消化器外科領域の中で最も多く遭遇する疾患の一つです。我が国においてその手術件数は年間15万件以上と推計されています。患者さんは、鼠径部の膨隆を訴えて外来受診されることが多いですが、ご高齢の方では自覚症状が乏しく、腹部診察時に鼠径部まで下着を下した際に偶然に発見されることもあります。そして、鼠径部ヘルニアは自然治癒する疾患ではないため、治療方針は、手術または経過観察しかありません。

手術が推奨される症例と時期

手術が推奨されるのは嵌頓症例(用手還納ができず、強い痛みやイレウス症状を伴う)あるいは嵌頓の危険が高い症例(痛みは軽度~中等度だが、還納に時間がかかるなど)ですが、さらに病態や併存疾患などを評価した上で、手術リスクが許容される場合となります。

また、手術リスクの評価には手術時期も考慮する必要があります。ヘルニア手術の術死亡率は待機手術 0.2-0.5%、緊急手術で 4.0-5.8%とされているので、手術を行う場合は緊急事態となる前に待機的手術として行うことが推奨されます。

複数の術式を習熟する必要性

手術は、脱出臓器の出口となるヘルニア門を閉鎖、補強するもので、術式は使用材料別に自己組織を用いる組織縫合法、人工素材のメッシュ法、到達ルート別に鼠径部切開法、腹腔鏡に分類されます。現在わが国では10種類以上の術式が行われていますが、いずれの術式にもメリット、デメリットがあり、さまざまなタイプのヘルニアに適切に対応するためには数種類の術式に習熟する必要があります。

例えば、ヘルニア嵌頓で腸管壊死をきたした場合、感染リスクのためメッシュ法は推奨されません。しかし、腹腔鏡手術を第一選択とし組織縫合法を得意としない施設では対応が困難となってしまいます。このことは日本ヘルニア学会学術集会でも取り上げられました。

患者さんの条件に応じた適切な術式を選択

当院では患者個別の条件(年齢、性別、体格、ヘルニア門の大きさ、嵌頓など)に応じ、適切な術式を選択する方針としています。例えば、嵌頓、腸管壊死に対しては組織縫合法と腹腔鏡のハイブリッド手術、若年者の小さなヘルニアでは組織縫合法で修復、腹腔鏡手術においては全例鼠径床の長さを実測し個別にメッシュサイズを形成するオーダーメイド手術などを実施しています。

鼠径部ヘルニアでお困りの方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介くださいますようお願いいたします。

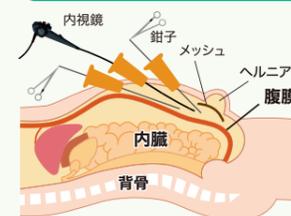
ヘルニア外来

	月	火	水	木	金	土
午後 13:00~15:30			中島 幸一		中島 幸一	

治療方法

手術には、鼠径部切開法と腹腔鏡下手術があり、腹腔鏡手術には「TEP法(テップ法)」と「TAPP法(タップ法)」があります。当院では腹腔鏡下手術を第一選択とし、さらに患者さまのからだの状態、病歴、ヘルニアの所見に応じて、個別にTEP法、TAPP法を選択しています。条件によっては鼠径部切開法をおすすめすることがあります。

TEP法(腹腔外到達法)の手術図

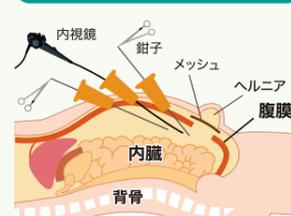


腹膜の外側に器具を入れるので内臓に触りません。

TEP法をおすすめするケース

- 両側ヘルニア
- 腹部手術既往がある
- 女性
- 膀胱ヘルニアなど

TAPP法(腹腔内到達法)の手術図



腹膜の内側に器具を入れます。

TAPP法をおすすめするケース

- 巨大ヘルニア、陰のうヘルニア
- 非還納性ヘルニア(戻せないもの)など

鼠径部切開法をおすすめするケース

- 前立腺、膀胱手術既往がある
- 再発例(腹腔鏡手術を併用したハイブリッド手術)
- 嵌頓ヘルニア など